

令和 7 年度

大学院経営情報イノベーション研究科
講義概要（博士後期課程）



静岡県立大学

UNIVERSITY OF SHIZUOKA

教 育 課 程 等 の 概 要

(経営情報イノベーション研究科 博士後期課程)

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	開 講 期	単 位 数			授 業 形 態		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習
特 殊 講 義	イノベーション論特殊講義	1・2	前		1		○		
	経営事業創造特殊講義	1・2	後		1		○		
	ソーシャル・イノベーション特殊講義	1・2	前		1		○		
	地域マネジメント特殊講義	1・2	後		1		○		
	知的情報システム特殊講義	1・2	前		1		○		
	知的情報基盤特殊講義	1・2	後		1		○		
	小計（6科目）			0	6	0			
演 習	特殊演習Ⅰ	1・2	前	2				○	
	特殊演習Ⅱ	1・2	前		2			○	
	小計（2科目）			2	2	0			
研 究 指 導	研究指導Ⅰ	1	通	4				○	
	研究指導Ⅱ	2	通	4				○	
	研究指導Ⅲ	3	通	4				○	
	小計（3科目）	—		12	0	0	—		
合計（11科目）		—		14	8	0	—		
学位又は称号		博士（学術） 博士（経営情報学）		学位又は学科の分野		経済学関係			
卒 業 要 件 及 び 履 修 方 法					授業期間等				
（修了要件） 本課程に3年以上在籍し、18単位以上習得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 （履修方法） 必修科目14単位を含め、18単位以上を履修する。ただし、研究指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び特殊演習Ⅰは必修とし、特殊講義及び特殊演習Ⅱは選択科目とする。選択科目は4単位以上の履修を必要とする。					1 学年の学期区分		2 学期		
					1 学期の授業期間		1 5 週		
					1 時限の授業時間		9 0 分		

【科目名】	イノベーション論特殊講義	Innovation Management
【開講時期】	2025 年度前期	
【科目責任者】	竹下城二郎 国保祥子	
【担当教員】	竹下城二郎 国保祥子	
【授業の目的・方法】	本講義を通じ、イノベーションに関わる理論、種類、機能、その創出の仕組み、あるいは企業経営とのかかわりについて理解する。	
【到達目標】	イノベーションとは、単に技術革新を指すものではなく、広く社会・経済を革新していくものである。そのダイナミズムをこれまでの経済学、経営学、あるいは社会学などに裏打ちされた知見を通じて、広範囲な視点から俯瞰し、イノベーションをいかに生み出していくかを考察する。	
【準備学習】	事前に配られた参考文献・資料に目を通しておくこと 授業後に、事前学習で調べた内容について授業で学んだことと照らし合わせて振り返りすること	
【授業展開】	第1回：イノベーションの理論 イノベーションに関する基礎理論を広範囲に紹介・解説する。 第2回：イノベーションの種類 イノベーションの内容を詳細に検討する。 第3回：イノベーションと経営（奥村） イノベーションがビジネスやソーシャルな分野でどの様に生み出され、活用されるかを検討する。 第4回：新規事業創造のロジック 新規事業創造にかかわる理論およびその成功に至るロジックを検討する。今日のベンチャー企業や既存企業による事業転換、あるいは多角化による新規事業創造の事例を検討する。 第5回：イノベーションと企業家精神 イノベーションの担い手である企業家の特性を明らかにする。 第6回：イノベーションとネットワーク イノベーションの発生メカニズムをネットワークの観点から検討する。 第7回：イノベーションと産業クラスター イノベーションと各地域における産業集積との関係性を検討する。 第8回：イノベーション・ディレンマ イノベーションを生み出す組織特性を多角的に検討する。 ※授業の中で最新のシラバスを提示します	
【評価方法】	授業での発言及び課題レポートの内容で評価する。	
【テキスト】	テキストについては、未定。 参考文献・資料は適時配布する。	
【参考書】	参考文献・資料は適時配布する。	
【備考】		
【社会人聴講生】	受け入れない。	【科目等履修生】 受け入れない。

【科目名】	経営事業創造特殊講義	Business Creation	
【開講時期】	2025 年度後期		
【科目責任者】	岩崎邦彦		
【担当教員】	岩崎邦彦 落合康裕		
【授業の目的・方法】	本講義は、事業創造と市場創造に関する理論と方法論に精通するとともに、その実践に不可欠な応用的能力を習得することを目標とする。具体的には、起業や新規事業開発などの事業創造分野と、新製品開発や新市場開拓などの市場創造分野に焦点をあて、これらの課題に理論的側面と実践的側面の両面からアプローチしていく。 なお、遠隔授業(Zoom による同時双方向型)を適宜取り入れて講義を行う。		
【到達目標】	市場創造、事業創造、イノベーションに関する専門的な知識と実践的な応用力を備えた高度専門人材の育成を目標とする。		
【準備学習】	事業創造、市場創造、起業、イノベーション、マーケティング等に関するジャーナルや文献を活用し、自らが研究対象とする分野の研究動向を、常にアップデートすること。		
【授業展開】	(岩崎邦彦 前半担当)市場創造に関する理論と研究方法論、実践活動について考察を行う。具体的な内容としては、市場創造の理論、市場分析の方法、企業分野・観光分野・農業分野の新市場開拓の理論と実践事例などを取り上げ、講義とクラス討議を行う。 ・市場創造の理論 ・企業のイノベーションと顧客創造 ・観光のイノベーションと顧客創造 ・農業のイノベーションと顧客創造 (落合康裕 後半担当)事業創造に関する理論と研究方法論、実践活動について考察を行う。具体的な内容としては、新規事業創造の理論と方法、起業のプロセスとそのマネジメント、既存企業の新規事業、起業家支援の施設と政策などを取り上げ、講義とクラス討議を行う。 ・新規事業創造の理論と方法 ・起業のプロセスとそのマネジメント ・既存企業の新規事業 ・起業家支援の施設と政策		
【評価方法】	各回のプレゼンテーション内容、講義への取組、課題レポートの内容を評価。 総合的な評価をスコア化し、本研究科・採点評価基準に沿って成績評価。		
【テキスト】	岩崎邦彦『引き算する勇氣:会社を強くする逆転発想』日本経済新聞出版 岩崎邦彦『地域引力を生み出す観光ブランドの教科書』日本経済新聞出版 岩崎邦彦『農業のマーケティング教科書』日本経済新聞出版 落合康裕『事業承継の経営学:企業はいかに後継者を育成するか』白桃書房 落合康裕『事業承継のジレンマ:後継者の制約と自律のマネジメント』白桃書房		
【参考書】	岩崎邦彦『世界で勝つブランドをつくる』日本経済新聞出版 岩崎邦彦『小さな会社を強くするブランドづくりの教科書』日本経済新聞出版 後藤俊夫(監修)落合康裕(企画編集)『ファミリービジネス白書 2022 年度版:未曾有の環境変化と危機突破力』白桃書房		
【備考】			
【社会人聴講生】	受入不可(博士後期糧の演習科目のため)	【科目等履修生】	

【科目名】	ソーシャル・イノベーション特殊講義	Social Innovation	
【開講時期】	2025 年度前期		
【科目責任者】	東野定律		
【担当教員】	藤本健太郎、東野定律、木村 綾		
【授業の目的・方法】	グローバル化、情報化の進展、少子・高齢化、非婚化、人間関係の希薄化といった背景の中で、失業率の増大、格差の拡大、社会から孤立した人の増大といった社会的課題が蓄積している。このような課題を解決するためには、地域から社会を変革するソーシャル・イノベーションとその担い手の育成が緊急の課題となっている。 本講義では、特に社会保障政策の視点からソーシャル・イノベーションについて解説し、ソーシャル・インクルージョン（社会的包摂）、公民協働論、社会福祉論、医療介護制度論から地域包括ケアシステムなど具体的な政策のあり方にまで踏み込んだ議論を行うものとする。 本講義は3人の講師が互いに内容に関して連携しつつ各自の専門分野を受け持つこととする。本講義における責任は担当の教授が受け持つこととする。		
【到達目標】	社会保障政策の視点からソーシャル・イノベーション、保健・医療・福祉の分野におけるマネジメントなど博士論文作成に必要な知識を習得する。		
【準備学習】	事前学習として教員の提示したテーマについて、関連資料、書籍等を読んでおくこと。事後学習として講義中に提供した課題内容について、内容の理解を深めること。		
【授業展開】	第1回：ソーシャル・インクルージョンの概念（藤本） ソーシャル・インクルージョンに関する基礎理論を広範囲に紹介・解説する。 第2回：ソーシャル・インクルージョンとイノベーション（藤本） ソーシャル・インクルージョンのイノベーション的側面について検討する。 第3回：ソーシャル・インクルージョンと社会保障（藤本） ソーシャル・インクルージョンと社会保障の関係性について検討する。 第4回：医療・介護政策の仕組みと今後の展望（東野） 医療・介護政策の仕組みに関する基礎理論を広範囲に紹介・解説する。 第5回：医療介護サービスの質の評価とイノベーション（東野） 医療介護サービスの質とソーシャル・イノベーションの効果について検討する。 第6回：地域包括ケアシステムと保健医療福祉職における連携（東野） 地域包括ケアシステムと保健医療福祉職における連携の必要性について検討する。 第7回：地域福祉政策と福祉マネジメント（木村） 地域における重要課題となっている地域福祉政策を把握し、地域における福祉イノベーションの必要性を明らかにする。 第8回：福祉サービスとその評価（木村） 現在提供されている福祉サービスの提供体制、現場の状況から課題の抽出を行い、政策評価を行う。		
【評価方法】	各担当教員ごとに提出されたレポートの内容をそれぞれ評価し（各 100 点）、それを平均化し、最終的な評価点とする。		
【テキスト】	別途指示する		
【参考書】			
【備考】			
【社会人聴講生】		【科目等履修生】	

【科目名】	地域マネジメント特殊講義	Regional Management
【開講時期】	2025 年度後期	
【科目責任者】	岸昭雄	
【担当教員】	岸昭雄、松岡清志	
【授業の目的・方法】	これからの地域は、地方分権が進む一方で、経済社会のグローバル化、少子・高齢化、地域間格差の拡大といった厳しい環境変化に直面しており、地域自らが地域をマネジメント(経営)して、変化に適応していくことを迫られている。具体的には、地域がビジョンに基づき、地域の資源を活用しながら、様々なステーク・ホルダー(関係主体=住民(家計)、事業者(企業)、行政(自治体)等)の協働によって地域の発展を図ることが必要である。このため本講義では、地域マネジメントに関して、組織運営、ビジョン作成、制度設計などの観点から、近年の潮流を踏まえて議論する。本講義は 2 人の講師が互いに内容に関して連携しつつ各自の専門分野を受け持つこととする。本講義における責任は担当の教授のうち 1 名が受け持つこととする。	
【到達目標】	地域マネジメントに必要な地域経済学、行政学、消費者論、公民協働論、社会福祉論などの知見を把握する。	
【準備学習】	事前学習として教員の提示したテーマについて、関連資料、書籍等を読んでおくこと。事後学習として講義中に提供した資料内容の理解を深めること。	
【授業展開】	第1回:人口減少社会における持続可能な社会構築に向けた政策(1)社会基盤整備(岸) 持続可能な社会インフラ整備や行政サービス等のあり方について解説する。 第2回:人口減少社会における持続可能な社会構築に向けた政策(2)都市政策(岸) 人口減少社会において必要とされる、多様な主体の参画による都市政策の方向性について解説する。 第3回:人口減少社会における持続可能な社会構築に向けた政策(3)産学官民連携(岸) 人口減少社会における都市政策の方向性について、産学官民連携のエリアマネジメントの実例を通じて、地域が主体となったまちづくりのあり方を議論する。 第4回:デジタル技術による地域課題の解決(松岡) AI、IoT、RPA などをはじめとするデジタル技術が社会課題の解決および行政の内部業務改革にどのように貢献し得るかを、事例を交えて解説する。 第5回:社会課題の解決に向けた行政における人材の育成・確保(松岡) 社会課題の課題に向けた行政における人材の育成・確保、外部人材の活用方を、事例を交えて解説する。 第6回:多様な形態による官民協働(松岡) 官民協働による社会課題解決をめぐる新たなアプローチとしてのデザイン思考、および具体的手法としてのオープンイノベーションを中心に、デジタル時代の官民協働のあり方について解説する。	
【評価方法】	各担当教員ごとに提出されたレポートの内容をそれぞれ評価し(各 100 点)、それを平均化し、最終的な評価点とする。	
【テキスト】	特になし	
【参考書】	特になし	
【備考】	発言機会を多くするなど積極的な授業への参加が求められる。	
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】 不可

【科目名】	知的情報システム特殊講義	Intelligent Information Systems	
【開講時期】	2025 年度前期		
【科目責任者】	湯瀬 裕昭		
【担当教員】	湯瀬 裕昭、渡邊 貴之		
【授業の目的・方法】	①インターネット上や各種センサを介したデータ・メディア・空間データが爆発的に増加していることに伴い、実問題に対する大規模かつ複雑なデータの知的情報処理が必要とされる時代が到来していることと、②そのような知的情報処理を具体化した知的情報システムは社会・ビジネスのイノベーションの基盤として活用することも要請されていることを踏まえ、知的情報システムの構築・利用に関して、(1)実問題に対する知的情報処理理論の展開と応用、(2)知的情報システムの事例、を講義する。 本講義は 2 人の講師が互いに内容に関して連携しつつ各自の専門分野を受け持つこととする。本講義における責任は担当の教授のうち1名が受け持つこととする。		
【到達目標】	知的情報システムの構築・利用に関する基礎的な事項や知的情報システムの事例を理解し、それらを応用して社会のイノベーションにつなげるための基礎的な素養を習得する。さらに、様々な分野への知的情報システムの応用の可能性について考えを深められるようになる。		
【準備学習】	授業前に講義資料等に目を通し理解しておくこと。授業後に講義内容を復習し、十分に理解を定着させること。		
【授業展開】	第1回：総論として、技術開発を社会のイノベーションにつなげるための基本的方法論、イノベーターとして求められる姿について講義する。 第2回：人間の知覚特性を理解し、人間の犯しやすいエラーの特性とその事例に関する知識を踏まえて、使い勝手に優れ、事故や失敗を未然に防ぐユーザインタフェースおよびシステムを設計する技術を講義する。 第3回：音声・文字・画像・図形などの情報の意味にまで踏み込んで理解・活用する技術の理論と応用を講義する。 第4回：知的情報システムの構築を目標として「概念モデリング」の一般的な理論・方法を講義する。 第5回：事例をもとに Project/Problem-Based Learning(PBL)や e-learning へ概念モデリングの導入を扱う。 第6回：学習者の抽象概念形成や学習対象の体系的認識を目的とした UML(Unified Modeling Language)等のモデル表現の方法について議論する。 第7回：データベース技術、情報検索技術、地図データ処理技術を中心とするデータ工学技術の理論と方法を講義する。 第8回：データベース技術、情報検索技術、地図データ処理技術を中心とするデータ工学技術の応用事例を講義する。		
【評価方法】	各担当教員ごとに提出されたレポートの内容をそれぞれ評価し(各 100 点)、それを平均化し、最終的な評価点とする。		
【テキスト】	適宜教員が資料を配布する。		
【参考書】	イノベーションを起こす(伊丹敬之(著)、日本経済新聞出版社)、エモーショナル・デザイン(ドナルド・A・ノーマン(著)、新曜社)、音声言語処理の潮流(白井克彦(編著)、松浦博ほか(著)、コロナ社) UML モデリングの本質(日経 IT プロフェッショナル BOOKS)(児玉 公信(著)、日経 BP 社) テキストマイニングハンドブック(ローネン・フェルドマン(著)、東京電機大学出版局)、GIS の理論(村山 祐司 編集、朝倉書店)		
【備考】	特に無し		
【社会人聴講生】	受入不可	【科目等履修生】	受入不可

【科目名】	知的情報基盤特殊講義	Mathematical Foundation for Intelligent Systems	
【開講時期】	2025 年度後期		
【科目責任者】	武藤伸明		
【担当教員】	武藤伸明、六井淳		
【授業の目的・方法】	①社会・産業・ビジネスのグローバル化・情報化に伴い、大規模かつ複雑な問題を適切にモデル化し数理的に分析する技術が求められていることと、②そのような技術をコアとする知的情報システムは社会・産業・ビジネスにおけるイノベーションの基盤として活用することも要請されていることも踏まえ、知的情報システムの構築・利用に関して、(1) 大規模かつ複雑な問題のモデル化に関する理論と方法、(2) 知的情報システム構築のための数理的処理の理論と方法、を講義する。		
【到達目標】	知的情報システムの構築・利用に関しての高度な理論と技術を身につける。		
【準備学習】	予習として、担当教員の指示に従って事前に講義内容を理解しておくこと。 復習として、講義の内容を振り返り理解を深めること。		
【授業展開】	第1回：総論、および複雑な社会的ネットワーク現象を解明する手法としての グラフ理論について講義する。 第2回：大規模複雑なネットワークデータの知的処理の理論と方法 ①クチコミ 宣伝効果の最大化などを行うための社会ネットワーク上での情報拡散の数理モデルについて講義する。 第3回：大規模複雑なネットワークデータの知的処理の理論と方法 ②イノベーション波及の将来予測などを行うための社会ネットワーク上での意見形成の数理 モデルについて講義する。 第4回：大規模複雑なネットワークデータの知的処理の理論と方法 ③コンピュータ上でのこれらモデルの高効率なシミュレーションを実現するための理 論、方法、システム化について講義する。 第5回：効率的なデータ解析を行うための基礎となる組合せ論について、それらの数理的処理の理論と方法を講義する。 第6回：コンピュータシミュレーションや社会データの分析に必須である大規模データのコンピュータによる処理技術 ①コンピュータシミュレーションなどの 基盤技術である線形代数問題における大規模データ処理について講義する。 第7回：コンピュータシミュレーションや社会データの分析に必須である大規模データのコンピュータによる処理技術 ②社会データに基づく情報抽出などの基 盤となる大規模最適化問題について講義する。 第8回：コンピュータシミュレーションや社会データの分析に必須である大規模データのコンピュータによる処理技術 ③それら理論のコンピュータ上での具体的実装について講義する。		
【評価方法】	講義への取り組み（40%）およびレポート（60%）により評価する。		
【テキスト】	授業開始時に教員が適宜指示する。		
【参考書】	授業開始時に教員が適宜指示する。		
【備考】			
【社会人聴講生】	不可	【科目等履修生】	不可